

地域の問題を幸福・正義・公正の視点から考える

～資料活用から、言語活動へ繋がる授業の実現を目指して～

岐阜県立多治見工業高等学校

金子 未央

<目次>

- 1 年間指導計画
- 2 単元指導計画
- 3 学習指導案 単元名「地方自治と住民の福祉」～地方自治の課題～
- 4 生徒への配布物
- 5 授業の事後分析
- 6 生徒の提出物
- 7 考査問題

《発表の要点》

新学習指導要領に明記されている、「言語活動の充実」と「幸福・正義・公正の視点からの考察」の2点に特に重点を置いた授業を行うよう心掛けた。

本校の生徒は基礎的・基本的な知識の習得を目指す上で、まずは授業に対する興味・関心を引くことが重要だと考える。事実、中学校までの基礎学力が備わっていない生徒も多く、教師側のアプローチに最初は耳を傾けているものの、「よく分からない」という理由から、次第に聞く姿勢が崩れてしまう場合も少なくない。そこで、年度当初から視覚に訴えかける授業や、生徒にとって身近だと思える事柄を授業で紹介し、なるべく生徒自身がイメージを膨らませられるように配慮してきた。

ところが、基礎的・基本的な知識が備わり、発問に対して単語では答えられるものの、「～だと思う。」や「～だから。」と、文章ではなかなか答えられない生徒がまだまだ多くいる。他人とのコミュニケーションを図る上でも、授業における言語活動の実践は非常に重要であると考え、そのために、本授業では資料を活用しながら付箋を用いて自分の意見を適切に表現し、それを仲間に伝え、意見をまとめるという活動を取り入れている。さらに生徒の言語活動の補助するために、資料の活用を取り入れ、また、全員が発言する機会を与えるために、付箋に書くという作業や4人1組のグループ学習を取り入れた。

本校は地元唯一の工業高校ということで、地域に貢献する活動を積極的に行っている。地域に根差し、地域に貢献できる人材になってほしいという願いを込め、多治見市のまちづくりを幸福・正義・公正の視点から考察することを本時の課題とした。

生徒全員の言語活動の充実を図り、さらに自分の身近な地域について考えを深める一つのきっかけとなる授業を今後も展開していきたい。

年間学習指導計画 現代社会（第1学年・全学科）

科名	公民科（現代社会）	教科書名	高等学校 〇〇〇〇	発行社	〇〇〇〇	単位数	2
目標	人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。						
到達目標に向けての具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸問題について自己との関わりからスタートし、様々な観点から追求する学習を通していかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚させる。新聞記事の活用も取り入れる。 ・現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、企業・金融機関の働き、公的部門の役割と租税などを理解させるとともに、個人と企業の経済活動における社会的責任について考えさせる。 ・基本的人権の保障と法の支配、平和主義とわが国の安全について理解を深めさせ、民主政治における個人と国家について考えさせる。また生命の尊重、人間の尊厳と平等、法と規範などについて考えさせ、民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせる。 ・世界の主な国の政治・経済の動向に触れながら、人権、国家主権、人種・民族問題などについて理解させ、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考えさせる。 						

評価の観点	評価の内容	評価の対象
関心・意欲・態度	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	観察、生徒との対話、ワークシート、レポート、生徒による自己評価
思考・判断・表現	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	グループやペアワークでの発言、レポート、考査問題
資料活用の技能	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付けている。	ワークシート、レポート
知識・理解	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方とに関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。	生徒との対話、考査問題

月	単元・項目	時数	単元を貫く目標	主な学習活動	評価方法
4月	第1編 私たちの生きる社会 ①環境問題 ②資源・エネルギー問題 ③科学技術の発達と私たちの生命 ④高度情報社会	4	生徒が諸資料を用いて、現代の諸課題を理解し、自分の言葉で表現することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の様々な課題を概観する。 ・地球温暖化対策や情報化の進展の考察を通して、幸福、正義、公正といった社会の在り方を考察する基盤を身に付ける。 ・科学技術の発達が医療や生命、倫理に及ぼす影響と課題について考察する。 	行動観察 ペアワーク、グループワーク、ノートへの記入
	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章 青年期と自己の形成 ①青年期とは ②青年期を充実させるために ③伝統や文化のかかわり				

6 月	第2章 個人の尊重と法の支配 ①個人と国家 ②基本的人権と法の支配 ③世界の政治体制	2	生徒が法と道徳の関係を考察する活動を通じて、あらゆる規範意識を高めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの人生に法がどのように関わっているのかを概観し、国家と私たちの関係について考察する。 近代民主主義思想の背景となった社会契約の考え方、法に支配の意義、基本的人権が拡大されていった経緯について理解する。 	<p>行動観察</p> <p>ペアワーク、グループワーク</p> <p>ノートへの記入</p>
	第3章 現代の民主政治と政治参加の意義 ①日本国憲法の基本原理 ②冷戦終結後の防衛問題 ③基本的人権の保障 ④新しい人権と公共の福祉 ⑤国会の運営と権限 ⑥内閣と行政の民主化 ⑦裁判所と人権保障 ⑧法と私たちの生活 ⑨地方自治と住民の福祉 ⑩選挙制度の現状と課題 ⑪世論の形成と政治参加	12	生徒が民主政治の意義としくみを理解することで、政治参加や世論形成などの活動に結び付けられるような意欲付けをする。	<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法は明治憲法とどのような点で異なっているか、諸資料より読み解き、日本国憲法の三つの基本原理が目指すものについて理解を深める。 基本的人権の保障と公共の福祉について幸福、正義、公正などを用いて多面的・多角的に考察する。 国民主権や議院内閣制、司法権の独立の必要性としくみを理解する。 現代の民主政治に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 地方自治の本旨、地方自治の新たな展開について理解し、身近な地域の諸問題について考察する。 選挙が民主政治にとって重要な意味をもつことを理解し、政治参加への関心を高める。 	<p>行動観察</p> <p>ペアワーク、グループワーク</p> <p>ノートへの記入</p> <p>新聞記事の活用</p> <p>調べ学習</p> <p>1学期期末考査</p>
7 月					
9 月	第4章 国際政治の動向と日本の役割 ①国家主権と国際法 ②国際連合の役割 ③冷戦終結後の国際社会 ④地域紛争と民族問題 ⑤領土問題	8	生徒が国際社会における政治を理解することで、今後の課題を具体的に論述することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会の歴史を概観しながら、国家の役割について理解する。 戦後の国際政治、核兵器の問題、民族紛争、領土問題などについて新聞等のマスメディアを活用しながら情報を収集し、国際社会についての関心を高める。 国際社会における日本の役割について考察する。 	<p>行動観察</p> <p>ペアワーク、グループワーク</p> <p>ノートへの記入</p> <p>新聞記事の活用</p> <p>調べ学習</p>
10 月	第5章 現代の経済社会と私たちの生活 ①経済体制の変容 ②現代の企業 ③市場の仕組み ④経済成長と景気変動 ⑤財政のしくみと税金 ⑥金融機関のはたらき ⑦戦後日本経済のあゆみ ⑧産業構造の変化 ⑨中小企業の現状と役割 ⑩食の安全と日本の農業 ⑪雇用と労働問題 ⑫消費者問題 ⑬社会保障と福祉社会	23	生徒が経済社会の諸事象から課題を見出す学習を通じて、多面的・多角的に事象が捉えられるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> 経済の概念は日常生活の身近なところで現れていることに気づき、その構造について理解を深める。 財政の機能と役割、課題について理解し、政府や日本銀行が、景気対策としてどのような政策を行ったらよいかを考察する。 日本経済の今後について考察する。 産業構造の変化、中小企業の役割、日本の農業政策について理解を深め、今後の日本の課題について意見を交流する。 戦後の経済民主化の内容を調べ、それがもたらした意義について考察する。 高度経済成長のきっかけと要因について諸資料を用いて調べる。 商品の供給に際して企業がもつ社会的責任を理解する。 経済の二重構造について理解する。 	<p>行動観察</p> <p>ペアワーク、グループワーク</p> <p>ノートへの記入</p> <p>新聞記事の活用</p> <p>2学期中間考査</p> <p>2学期期末考査</p>
11 月					
12 月					

1 月	第6章 国際経済の動向と日本の役割 ①国際分業と貿易 ②国際経済体制 ③国際収支と為替相場 ④国際経済の動向 ⑤進む地域経済統合 ⑥途上国の経済と南北問題 ⑦国際社会のこれから	12	生徒が国際社会における経済の動向に触れながら、国際社会における日本の果たすべき役割を論述することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・国際経済の動向を概観しながら、自由貿易と保護貿易の違い、為替相場の変動が及ぼす影響、南北問題などについて考え、今後期待される日本の役割を考える。 ・FTAやEPAなど地域的経済統合や経済協定の効果について考え、現代の抱える問題について考察する。 ・南北問題の発生した原因について考え、発展途上国の抱えている問題について理解する。 ・国際協力のあり方、国際経済の中の日本の役割について考える。 	<p>行動観察</p> <p>ペアワーク、グループワーク</p> <p>ノートへの記入</p> <p>新聞記事の活用</p>
	2 月		第7章 民主社会に生きる倫理 ①豊かな人生を求めて ②日本の伝統的な考え方 ③西洋社会の考え方	3	生徒が先哲の思想や生き方、宗教的信念に触れることを通じて、自らの現実を省みることができる。
3 月	第3編 ともに生きる社会をめざして ①社会保障と消費税 ②クジラは野生保護動物か水産資源か ③人口問題と未来	2	生徒が現代社会の諸課題を様々な立場から考察する活動を通じて、そこで起こりうる衝突やその解決の方法について意見を論述することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障と消費税、捕鯨、人口問題について新聞やインターネットを活用してデータを収集し、それぞれの問題について自分の意見を論述しながらディベートを行い、今後の対策を考察する。 	<p>行動観察</p> <p>ディベートへの参加</p> <p>学年末考査</p>

合計時間数 70 時間

単元指導計画

単元の名前	現代の民主政治と政治参加の意義
-------	-----------------

□単元の目標

民主政治の基本原理に基づきながら、民主政治における世論形成と政治参加の意義について理解するとともに、民主政治の前提となる個人の在り方について、個人と国家を中心に考察し、また、民主社会に主体的に生きる人間としての在り方生き方について考察する。

□単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
①現代の民主政治と政治参加に対する関心が高まっている。 ②民主政治における個人と国家の在り方や民主社会に主体的に生きる人間の在り方について考察しようとしている。 ③法の役割や地方自治に触れながら政治と生活との関連性に気付き、公正な態度で考察しようとしている。	①現代の民主政治と政治参加から課題を見いだしている。 ②現代の諸課題について幸福、正義、公正などを用いて多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 ③思考・判断の過程や結果を自分の言葉で他者に発表し、ノートやワークシートにまとめることができている。	①現代の民主的に関する情報を様々なメディアを通して収集している。 ②収集した情報の中から民主政治における個人と国家の在り方や民主社会に主体的に生きる人間の在り方についての学習に役立つ情報を適切に選択し、効果的に活用している。 ③資料を用いながらそれぞれの立場について多角的に考察し、話し合いの中でそれらを活用することができる。	①国会を中心とする民主政治の仕組みや、議会制民主主義の意義、国会と内閣の関係について理解し、その知識を身に付けている。 ②民主政治における権力分立の意義やその過程について理解を深め、その知識を身に付けている。 ③民主政治の下では、国家の行為に対して最終的には国民自らが責任をもつことになることを理解し、その知識を身に付けている。

次 程	学習活動	評価の観点				評価規準等
		関	思	技	知	
一 次 第	<p>1 国会の運営と権限</p> <p>【ねらい】 議会制民主主義とはどのようなものか、国権の最高機関である国会の権限について理解させる。</p> <p>【MQ】 国民主権を実現するために、日本にはどのような仕組みがあるのだろうか。</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> 国会の構成、権限を確認するとともに、衆議院と参議院の違いについて理解する。 身近で知っている法律の名称を挙げ、法律の成立過程を確認する。 	○				●
二 次 第	<p>2 内閣と行政の民主化</p> <p>【ねらい】 議院内閣制や内閣の組織と権限について理解し、行政の民主化のために何が必要かを考えさせる。</p> <p>【MQ】 内閣と国会の関係はどのように定められているのだろうか。また、国民のための政治を行うために必要なこととは何だろうか。</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> 議院内閣制の仕組みを前時の国会の権限と関連付けて理解する。 内閣総理大臣や官庁の名前を挙げながら、時事と合わせてその役割を理解し、行政の役割について関心をもつ。 	●		○		○
三 次 第	<p>3 裁判所と人権保障 / 4 法と私たちの生活</p> <p>【ねらい】 日常生活の中での法の役割について考えさせ、司法権の独立や裁判員制度について理解させる。</p> <p>【MQ】 基本的人権の保障が個別に実現されるために必要なこととは何だろうか。</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> 裁判所の役割を通じて基本的人権の保障を実現するための仕組みを理解する。 司法権の独立を過去の事例や判例から理解する。 ある人の住環境を優先する際に考えられる幸福の対立を例に、その解決策を考察し、ワークシートに記入する。 <div style="text-align: center;"> </div>	○		○		○

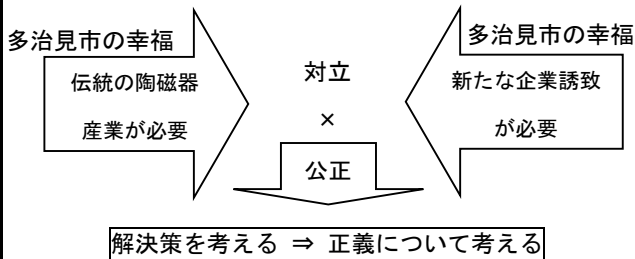
（次）第四

5 地方自治と住民の福祉

【ねらい】地方自治の意味と地方自治の発展のための課題について考えさせる。

【MQ】自分の住む地域が抱えている課題を解決するために、必要なこととは何だろうか。

- ・統計より地方自治の課題を理解し、地域社会の一員としてどのような参加方法があるか考察する。
- ・多治見市のまちづくりについて幸福、正義、公正などの観点からグループ学習を通して考察し意見をまとめる。



○
○
●
○

- ②統計やグラフなどの資料を活用して、地方財政の課題を読み取っている。
- ③駅前の自転車置場設置や道路の整備などが多治見市の市政によるものだということに気付く。
- ②多治見市のまちづくりに関わる対立状況の解決について、幸福、正義、公正などの観点からグループワークを通して考察している。
- ③考察の過程や結果をノートやワークシートに自分の言葉で適切に記入している。

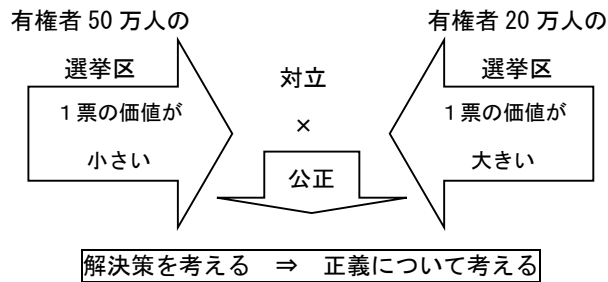
（次）第五

6 選挙制度の現状と課題

【ねらい】国会議員の選挙制度はどのような仕組みで、何を課題としているのかを模擬選挙を通して考えさせる。

【MQ】現在の日本の選挙制度の課題とは何だろうか。

- ・衆議院議員選挙を例にとり、個人名と政党名の投票によりどのように選出されるのかをシミュレートし、ドント方式による議席配分を計算式で求める。
- ・マスメディアから情報を収集し、一票の格差をめぐる問題について幸福、正義、公正などの観点から考察し、選挙制度の課題について自分の考えを表現する。



○
○
●
○
○

- ③制限選挙から普通選挙へと拡大した過程と、どのようにして代表を選出しているのかを模擬選挙を通して理解している。
- ③新聞記事などのマスメディアを活用しながら、一票の格差をめぐる問題について情報を収集し、考察へと繋げる。
- ②一票の格差に関わる対立状況の解決について、幸福、正義、公正などの観点から考察している。
- ①インターネットを利用した選挙運動など新しい動きに注目している。

（次）第六

7 世論の形成と政治参加

【ねらい】政党や圧力団体を理解するとともに、参政権の実現にはどのような方法があるのかを考えさせる。

【MQ】国民が政治に参加するためには、どのような方法があるのだろうか。

- ・政党や圧力団体が果たす役割について理解する。
- ・政治的無関心の問題から、国民が主権者であることの意義を考える。
- ・現代の社会にはどのような政治参加の方法があるか意見交流をする。

○
○
○
●

- ①国民の多様な意見や要望を議会に反映する政党の役割に注目し、議論を通じて民主政治を実現させる原理を理解している。
- ①なぜ若者が政治的無関心になるのか、その理由を考察している。
- ③政治参加の意義について、高校生の立場からできることを考察し、国家の行為は最終的に国民が責任をもつことを理解している。

※「評価規準等」の欄の○印の番号は、「□単元の評価規準」における各観点別の評価規準の番号と一致している。

学習指導案

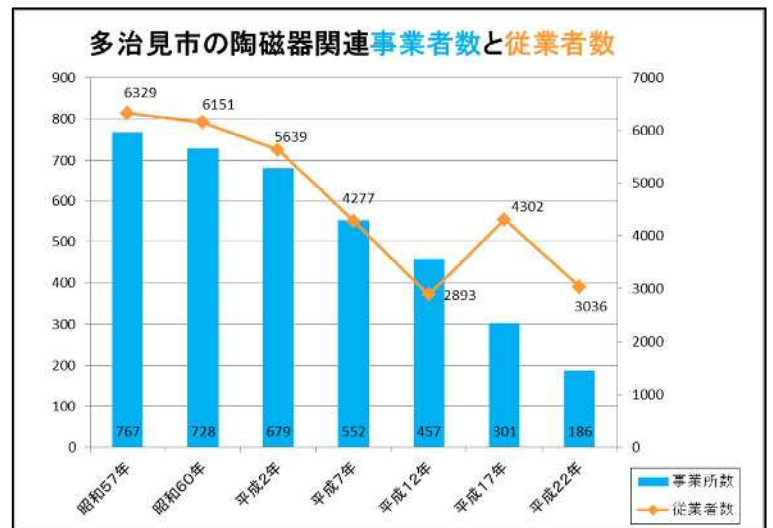
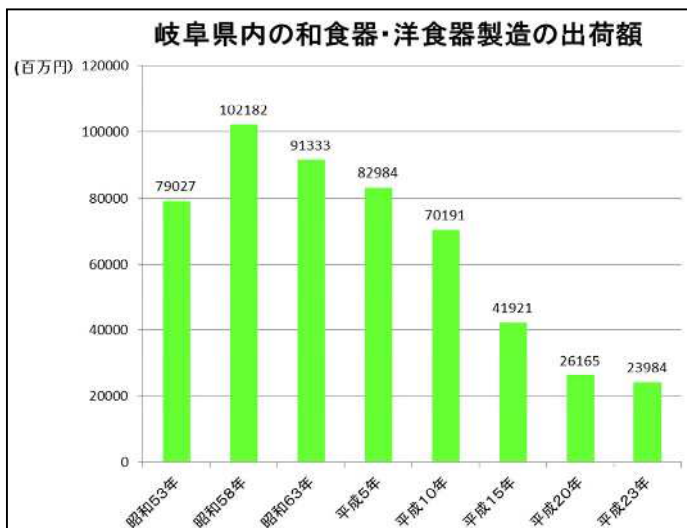
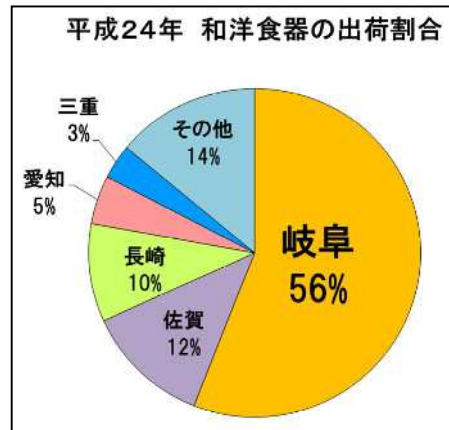
日時	平成〇年〇月〇日(〇)第〇限	指導クラス	1年〇〇科(男子〇名、女子〇名)	指導者	〇〇 〇〇
教科(科目)	公民(現代社会)	単元名	地方自治と住民の福祉(6時間目/8時間)		
教科書	『高等学校 〇〇〇〇』(〇〇〇〇)				
本時の主題	地方自治の課題				
本時の目標	統計やグラフ、新聞記事を活用して、多治見市のまちづくりについて幸福、正義、公正などの観点から考察させる。				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・統計やグラフ、新聞記事などの資料を活用して、多治見市の課題に対するメリットとデメリットを読み取ることができている。 <li style="text-align: center;">【資料活用の技能】 ・多治見市のまちづくりに関わる対立状況の解決について、幸福、正義、公正などの観点からグループワークを通して考察し、その過程や結果を自分の言葉でノートやワークシートに適切に記入している。【思考・判断・表現】 				
指導の内容・ねらい		学習活動		指導上の留意点・観点別評価	
導入	前時の復習	<p><発問①></p> <p>多治見市が全国に向けてアピールできるものには何があっただろう？</p> <p>○前時に学習した多治見市の産業について簡単に復習する。</p> <p>○多治見市の陶磁器産業に関わる資料を用いて考察する。陶磁器についてはマイナス成長だが、タイルはプラス成長であることに注意する。</p> <p>○多治見市がトヨタの研修施設やアマゾンの物流センター建設といった企業誘致を実行していることを確認する。</p>		<p>○陶磁器産業に関わる事業所数と従業者数の変化、出荷額のグラフを提示する。(グラフは経済産業省「工業統計調査」より作成)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(評価方法)</p> <p>グラフより、多治見市の陶磁器産業の変化を読み取る。【技能】</p> </div>	
展開	本時のMQの提示	<p><本時の課題></p> <p>多治見市の産業を発展させていくためにより大切なのは、窯業か、企業誘致か。</p> <p>※幸福の対立：伝統である窯業⇄新たな企業誘致</p> <p>※正義：多治見市を暮らしやすいまちにする。</p> <p>○自分の意見とその理由をノートに記入する。</p> <p>【グループ学習(4人1組)】</p> <p>○グループに分かれ、一人当たりの持ち時間30秒で意見交流を行う。意見交流の後、多治見市のまちづくりに必要なのは窯業か、企業誘致か、グループとしての意見を一つにまとめる。</p>		<p>○多治見市のまちづくりを本時の課題に設定することで、生徒の身近なところから考えさせる。</p> <p>○理由については、個々の価値観で自由に表現させる。</p> <p>○全員に意見発表する機会を与えるために、グループ学習を行う。</p> <p>○タイムキーパーは教師が行い、意見交流の進行はリーダーが中心となって行うことに留意させる。</p> <p>○資料とワークシートを配布する。</p> <p>○付箋は1人各色2枚ずつ配布し、それ以上書ける場合は枚数を増やすように指示する。</p>	
	個人の価値観の表現				
	他者の価値観の理解・意見の統合				
	資料の活用、資料を根拠にした意見の表現	<p><発問②></p> <p>資料を参考にして、その立場のメリットとデメリットについて考えよう。</p> <p>○資料を活用しながら、それぞれの立場のメリット(期待できること)をピンク色の付箋に、デメリット(不安なこと)を青色の付箋に書いて、意見交流しながらワークシートに貼っていく。</p> <p>○窯業を守ることのメリットとデメリット、企業誘致をすすめることのメリットとデメリットについて、代表のグループが発表する。</p> <p>→それぞれの立場のメリット、デメリットを全員が理解する。</p>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(評価方法)</p> <p>資料よりメリットとデメリットを読み取り、自分の意見を付箋に表現して、それらをグループでまとめることができる。【技能】</p> </div>	
まとめ	公正についての考察	<p><発問③></p> <p>両者のメリット・デメリットを踏まえ、多治見市を発展させていくために必要なことは何か。</p> <p>○幸福の対立に対して、調整や解決を図っていくために最も適切な解決策を自分のノートに記入する。</p> <p>○最後にワークシートを提出する。</p>		<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(評価方法)</p> <p>課題に対する結論を自分の言葉で適切に表現し、グループでまとめることができる。【思考・判断・表現】</p> </div>	

生徒への配布物

グループ学習で使用したワークシート

多治見市のまちづくりを考えよう！		班 _____
<small>☆グループ学習☆ ふせんを貼りながらグループ内で自分の意見を発表しよう。ただし、ふせんの右下には自分の名前を書くこと。</small>		
多治見市のまちづくりに必要なのは、		
メリット <small>(期待できること)</small>		デメリット <small>(不安なこと)</small>
卒業と企業誘致、2つのメリットとデメリットを踏まえて、 多治見市を發展させていくために必要なことは何か？ ⇒ノートに自分の意見を記入		

発問①で提示したグラフ



多治見市のまちづくりに必要なのは・・・「伝統である窯業」

資料 ☆個人学習☆ 窯業をすすめることのメリット（期待できること）とデメリット（不安なこと）を新聞記事やグラフから読みとって抜き出そう。メリットはピンクのふせんに、デメリットは青色のふせんに書こう。

ご当地焼きそばに専用皿 多治見工高生が試作

多治見市の山形日産が、地元産の陶磁器（陶器）の生地で、焼きそばの専用皿を試作した。試作品は、焼きそばの専用皿を、焼きそばの専用皿で試作した。試作品は、焼きそばの専用皿を、焼きそばの専用皿で試作した。

2013.8.23 中日新聞

② タイル業界プラス転換 東濃、7～9月期の景況

日本産タイル協会によると、7～9月期の東濃地区のタイル業界は、景況がプラス転換したと見られる。タイル業界は、景況がプラス転換したと見られる。タイル業界は、景況がプラス転換したと見られる。

2013.11.16 山梨新聞



多治見市のまちづくりに必要なのは・・・「新たな企業誘致」

資料 ☆個人学習☆ 企業誘致をすすめることのメリット（期待できること）とデメリット（不安なこと）を新聞記事を読んで抜き出そう。メリットはピンクのふせんに、デメリットは青色のふせんに書こう。

環境 行政に組合政策を 「地方」もの申す一行草子界つ

吉村功氏・名古屋大助教授

○税絶たぬ認定患者

「かつての被害がひどすぎたためか、日本では人がバタバタ倒れないと公害とは思わないのですかね。例えば四日市の場合、硫黄酸化物が減少したのは確かですが、窒素酸化物濃度は横ばいか上昇気味です。」

「自治体ではいままも税収や働き口がふえて地元がうるおうと、企業誘致がさかんです。」

「誘致の収支決算は、四日市市では、修めなものです。メリットは固定資産税（土地や機械などにかかる税金）と法人市民税（会社の利益にかかる税金）がふえることです。固定資産税は消耗されるのでどんどん目減りする。法人市民税も不況で低迷しています。一方、支出は公害対策費がかなりかかったし、最近では工場の近くには住めない、市民がどんどん郊外に移住している、そのための学校、道路、水道など、余計な持ち出しも多くなった。公園やプールを造ったけど、これらは工場が来なければ不要なものです。」

アマゾンが多治見進出 物流拠点、今秋開設 1000人雇用

2012.3.15 山梨新聞より

①

多治見市と協定締結 工業団地に研修施設

2011.4.14 中日新聞

②

授業の事後分析

1. 授業者による分析

□「言語活動の充実」について

- ・グループ学習を重ねた結果、本時のMQについて、リーダーが中心となって生徒が自分の意見を述べる事ができていた。
- ・自分の意見を付箋に書くことで、普段は意見を発言することが少ない生徒にも、活躍する場を与えることができた。
- ・一人30秒と時間を設定することで、生徒全員に言語活動の時間を確保することができた。
- ・次のステップとして、時間設定をしなくても、リーダーが指揮をとりながら全員が意見交流できるグループ学習を目指したい。

□「幸福・正義・公正の視点からの考察」について

- ・地域の問題を幸福・正義・公正の視点から考えたかったが、本時のMQに対する答えが「窯業も企業誘致もどちらも大事」と答える生徒が多く、結論がぼやけてしまった。
- ・誰にとっての幸福なのか、その幸福がどの立場の誰と衝突するのか、限定的に考えさせても良かった。

□その他 反省点

- ・ノートの取り方について、不徹底な点があった。提示したグラフまでも記入する生徒がおり、どの部分がメインでノートに残さなければならないのか、日頃から指導しなければならないと思った。
- ・資料活用について、一つの資料から読み取るばかりで複数の資料を読み取った生徒がいなかった。ワークシートにそれぞれの資料から読み取れたことを記入する欄を設けるなど活用が図れたかもしれない。

2. 参観者による講評

□「言語活動の充実」について

- ・グループ学習が日頃から訓練されているのか、言語活動については全員が意見交流できていた。これが良いきっかけとなり、生徒の語彙も増えてくるのではないか。
- ・窯業か、企業誘致か、個人の意見ではばらつきがあったが、グループで意見をまとめる際、企業誘致が圧倒的に多くなってしまったので、窯業、企業誘致それぞれでグループを組ませ、討論で互いの価値観をぶつけ合っても良かった。
- ・グループ学習の際、時間がもう少しずつあると生徒の考えがもっと引き出せたかもしれない。【思考・判断・表現】において大切だと思うところに重点を置いて授業を展開するべきである。

□「幸福・正義・公正の視点からの考察」について

- ・「幸福・正義・公正」のキーワードを生徒に考えさせることができたのか。なぜそれが大事なのか、どの立場に立ってそれが大事と思うのか、本時では「幸福」というキーワードを使って考えさせても良かったかもしれない。
- ・「幸福・正義・公正」について、本時の授業では構成上の問題があった。
- ・最後、結論付けられなくても「幸福・正義・公正」の3点の見方、手法で考えさせることは重要である。

□その他

- ・意欲が思考に結び付き、最終的には知識となる。意欲を引き出すきっかけが大切である。
- ・生徒の書く場面、聞く場面等、メリハリをつけるべきである。
- ・単元を貫く目標が必要である。また、本時の目標を「○○を通じて▼▼に気付き、～～することについて××できる。」と設定すると良い。本授業では「統計や新聞記事を通じて多治見市のまちづくりにおけるメリット、デメリットに気付き、多治見市を発展することについて考察できる」と設定した方が良かったのではないか。

生徒のノート・グループ学習のワークシートより

【本時のMQ】

多治見市の産業を発展させていくためにより大切なのは、窯業か、企業誘致か。

	窯業	企業誘致	両方
人数	8名	26名	1名
主な理由	<ul style="list-style-type: none"> ・多治見は窯業を行うのに必要な資源がたくさんあるから使わないのは勿体ないと思うし、皿や茶碗は日常生活に必要だから。 ・昔からあるものだし、限られた地域でしか窯業はできないから。 ・新しいからといってみんなと同じにしては多治見も他のところと変わらなくなるので、伝統である窯業の方が大切だと思ったから。 ・窯業は伝統的な文化で、それをなくしてしまっはいけないと思うから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>グラフより、現在では窯業に関わる従業者数や出荷数が毎年減り続けている</u>から、企業誘致をした方が発展すると思ったから。 →評価方法【技】 ・企業誘致が進むと、企業に働く人が多治見に住んで、活性化に繋がると思ったから。 ・企業誘致する企業の名前が有名なら、多治見のアピールにも繋がると思ったから。 ・最近ではプラスチックなどの器が多くなってきて、陶器では限界があると思うから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多治見市を発展させていくためには、新しい企業誘致も必要だが、古くから伝わってきた窯業も工夫すればもっと良くなると思ったから。

【発問②】 グループとして意見を一つにまとめた後、資料を参考にして、その立場のメリットとデメリットについて考えよう。

→評価方法【技】

班	立場	メリット	デメリット
1	企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>雇用確保と税収を拡大</u>することができる。●資料① ・企業誘致によって企業・地域の<u>イメージアップ</u>になる。●資料② ・成功すると莫大なお金が入る。▲ 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>環境の悪化</u>が進む。●記事 ・土地を買ったり公害対策をしたりと費用がかさむ。●記事 ・不況で倒産した場合、失業者が多く出てしまう。■
2	企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員も増え、活性化する。●資料① ・<u>雇用確保と税収拡大</u>に繋がる。●資料① 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>公害</u>に繋がる。●記事 ・道路が混んだりするし、大きな土地が必要である。■
3	企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> ・注目されてたくさんの人が訪れる。●資料② ・働く人が近くに住むから地域が活性化する。■ ・高速道路が近いから注文されてから速達できる。▲ 	<ul style="list-style-type: none"> ・誘致する際にお金がかかる。■ ・倒産した時のダメージ■ ・広大な敷地を使うから、<u>迷惑になる</u>可能性が大きい。●記事

4	窯業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を発展させるために、その地域の工業高校も協力している。●資料① ・地域の産業である窯業に関わる高校がある。■ ・セラミックの技術は向上している。■ 	<ul style="list-style-type: none"> ・陶器の売りが上がらない。●資料② ・窯業関係の仕事は減っているから発展は難しい。■ ・従業者数が減っている。●資料③
5	企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の真ん中辺りに多治見はあるから、全国各地どこでも行きやすいという交通の利便性がある。▲ ・雇用確保と税収拡大に繋がる。●資料① 	<ul style="list-style-type: none"> ・土地を確保するために自然などを壊さないといけない。●記事 ・会社を建てるのにお金がかかる。■ ・公害が問題になるかもしれない。●記事
6	企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく雇用してもらえ人数が増える。●資料① ・企業誘致をすることによって多治見市のイメージアップに繋がる。●資料② ・多治見に集まる人が多くなる。●資料② 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業を意識しすぎて、環境面が疎かになってしまう。●記事 ・土地が必要。■ ・市の支出が多くなる。▲
7	企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用者が増える。●資料① ・イメージアップ。●資料② ・楽に買い物ができる。■ 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題。●記事 ・交通量が増える。■ ・土地が必要。■ ・経営不安。■
8	企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> ・大企業から雇用してもらえするのは大変良いことで、就職先が増えるのも良いこと。●資料① ・トヨタの進出は地場産業の陶器業界のイメージアップに繋がる。●資料② ・企業が増えることで雇用も増えていく。●資料① 	<ul style="list-style-type: none"> ・公害や事故が増えそう。●記事、■ ・様々なことに掛かる税金が増える。▲ ・公害で人が苦しんでいるので、企業を増やすのは良いが、公害対策をしっかりと行う。●記事
9	企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用確保と税収拡大に繋がる。●資料① ・新しいものを取り入れることによって、人が訪れ活気が出てくると思う。■ ・多治見のイメージアップに繋がる。●資料② 	<ul style="list-style-type: none"> ・公害などが起きてしまう可能性がある。●記事 ・企業は都市などに行けばあるので、多治見の伝統的な部分が減ってしまう。■
10	企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> ・働き先の増加。職のない人たちを減らすことができるのではないかと。●資料① ・従業員を雇って、市に人がたくさん来る。●資料①② 	<ul style="list-style-type: none"> ・排気ガスや排水などによる公害が心配。●記事 ・施設を作るのに金がかかる。■ ・健康被害と公害への不安。●記事 ・事業失敗時のリスク。■

評価規準

- 資料より読み取れたもの
- ▲資料を読み取ってはいるが、表現が稚拙であったり、読み取りが不十分であったりするもの
- 資料にはない、個人の意見

授業者の考察

上の波線部について、それが誰にとっての「幸福」であるか、どの立場の「幸福」と衝突するのかを問う発問をすることで、授業の構成がはっきりしたと思う。キーワードを「幸福」の1点に絞り、それがどの様な対立を生み出し、そこにはどの様な価値観が背景にあるのかを考察する授業を展開すべきであったと考える。

【発問③】両者のメリット・デメリットを踏まえ、多治見市を発展させていくために必要なことは何か。

→評価方法【思】

両者を合わせることができた記述（波線部は評価規準に値する記述）

- ・ 窯業が継続できる資源を残しながら、公害が起こらない程度の企業誘致をして伝統と新しい技術の融合を図ればいいと思う。
- ・ 伝統的なことを続けながら、企業誘致も市や土地に被害なく、雇用の人数なども計画した上で行っていく必要がある。
- ・ 窯業と企業とのコラボレーションをする。例えば、有名な企業に多治見の陶器を使った商品を作ったり販売したりしてもらう。
- ・ 誘致した結果集まった人々をターゲットに、周辺で陶器などを売りさばく。多治見まつりを活用する。
- ・ 誘致するのもセラミックス関係の企業であれば、どちらの力も多治見市に貢献できると思う。

両者を合わせることができなかった記述

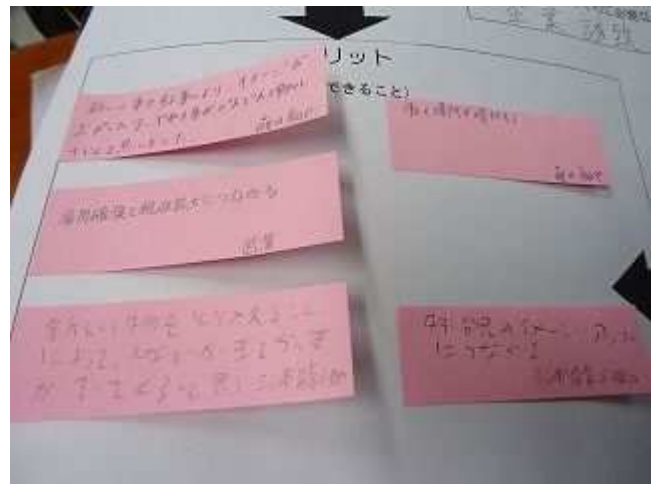
- ・ 透光性タイルや熱に強いタイルなど、窯業の新天地をアピールする。
- ・ 窯業も企業誘致もどちらも同じくらい発展させなければならない。
- ・ 窯業でイメージアップを図る。

【生徒の取組の様子】

発問②付箋を用いた意見交流の様子



ワークシートと付箋



「幸福」の対立における評価問題例

多治見市では、市街地の渋滞を緩和させるため、多治見インター交差点から国道19号住吉町を結ぶ道路を4車線化する事業を計画している。



問1 仮に、道路付近に住む住民から事業反対の声が上がった場合、反対する理由としてどのような意見を述べるだろうか。自分の意見を次の文章に当てはまるように答えよ。

道路が4車線化することで、私たちは（ ）に困るため、この事業には反対である。

問2 この事業が行われることで渋滞が緩和されるということだが、それは誰にとって幸福なのか、自分の意見を次の文章に当てはまるように答えよ。

道路が4車線化することで、道路の渋滞は緩和し、これは（ ）にとっての幸福である。

問3 問1で答えた道路付近に住む住民の幸福と、問2で答えた立場の人たちの幸福は対立している。この問題を解決するための方法を自分なりに考えて、意見を30字以内で述べよ。